

市町名 沼津市

地域学校協働本部	
放課後子供教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
しずおか寺子屋	
その他（通学合宿等）	



実施開始年度 平成 29 年度

保護者と家庭教育支援員による座談会

活動名	たのしい子育て応援隊			
実施箇所名	各園、各校の保護者団体等の研修会			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	家庭教育支援		
	開催日数等	3回	実施場所	沼津市内 各園、各校
	参加保護者数 (のべ数)	126 人	ボランティア数 (家庭教育支援員のべ数)	16 人
	<概要・特徴> 各園、各校の保護者団体等が主催する研修において、家庭教育支援員による出前講座や座談会を行い、参加者に子育てに関する様々な気づきを得てもらう。			
	<活動上の工夫> ・家庭教育支援員が座談会のファシリテーターとして参加する。			
	連 携 先	実施場所である各園、各校		
活動の成果	・座談会により、今までつながりがなかった保護者同士、横のつながりができる。 ・学校関係者だけでなく、自治会関係者、保護司など、地域の様々な人間が座談会に加わることで、保護者にとって多くの気づきを得る場となる。			
課題等	・現在本市には13名の家庭教育支援員がいるが、生業がある中での支援員活動は日程調整が難しく、全体の5割程度の参加率であるため、家庭教育支援の回数増加や質の向上に向けて、支援員の数を増やす必要がある。			
備考				
参考URL				

市町名 熱海市

地域学校協働本部	
放課後子供教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
しずおか寺子屋	
その他（通学合宿等）	



実施開始年度 令和 元 年度

立ち寄りやすいサロンを設置

活動名	就学児健診におけるサロン型家庭教育相談			
実施箇所名	熱海市いきいきプラザ、南熱海マリンホール			
活動の概要・特徴・工夫	目的	就学前の保護者の悩みの解消		
	開催日数等	3日間	実施場所	ロビー等
	参加保護者数	各回8人程度	家庭教育支援員数	2～3人
	<概要・特徴> 小1の壁と言われるよう、就学を控えた保護者は様々な悩みを抱えている。家庭教育学級に出向き、つながるシートの実践もしているが、近年は働いている保護者が増加しており、参加できる保護者ばかりでない。就学児健診は、どの保護者も参加することから、普段支援の届かない保護者にも支援が可能になると考え、就学児健診を主催する学校教育課の許可を得て、家庭教育相談コーナーの設置を実現することができたものである。			
	<活動上の工夫> <ul style="list-style-type: none">無理に個室に誘導せず、サロン型のソファ等を使用、冷たいお茶の用意子どもをひきつけるため、絵本の準備や折り紙等で飾りつけ相談に来てくれた親子へ折り紙で作ったランドセルのプレゼント児童虐待の相談があった時のために、「児童虐待への対応のポイント」を家庭教育支援員に配布、子育て支援室の相談員に事前に連絡			
	連携先	学校教育課、社会福祉課（子育て支援室）		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none">・やわらかい雰囲気を作ったことで、気軽にサロンに寄ってもらえた。家庭教育支援員が、教員時代や子育ての経験を活かし、保護者の抱える様々な悩みに対応することができた。・学校や園には話しづらかった保護者の悩みを家庭教育支援員が拾い上げ、指導主事につなげることができた。			
課題等	<ul style="list-style-type: none">・発達障害に関する悩みは、受け答えを慎重にしなければいけない内容ということもあり、知識を得る場が欲しいと家庭教育支援員から申し出があった。・悩みの中には、子育てを終えた家庭教育支援員より、少し前に就学を経験した保護者の方が対応できる内容もある（体操着は何枚買うか、PTA役員についてなど）。そのような保護者が今度は悩みを聞く側になるような仕組みを作っていたらと思う。			
備考				
参考URL				

市町名 熱海市

地域学校協働本部	
放課後子供教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
しずおか寺子屋	
その他（通学合宿等）	



実施開始年度 令和 元 年度

人づくり推進員による講話

活動名	人づくり推進員による講話を組み合わせた家庭教育講座			
実施箇所名	①桃山小学校家庭教育学級 ②PTA家庭教育委員会			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	参加者同士の交流を図るとともに、家庭の教育力向上を目指す		
	開催日数等	2回	実施場所	学校会議室
	参加保護者数	①10人②19人	家庭教育支援員数	1人
	<概要・特徴> つながるシートを使った家庭教育講座に取り組んで3年目になるが、アンケートでは、保護者同士のグループワークだけではなく、講師の話も聞きたかったと意見が書かれることが増えてきた。そこで、つながるシートの進行を家庭教育支援員が担い、まとめとして、人づくり推進員がそのテーマにそった講話を行う家庭教育講座を行った。			
	<活動上の工夫> ・あらかじめ、家庭教育支援員と人づくり推進員で時間配分や役割などについて打ち合わせ ・人づくり推進員は、つながるシートの間、グループをまわり、参加者から出た意見を踏まえた講話を行う。			
	連携先	人づくり推進員		
活動の成果	参加者同士のつながる時間も持ちつつ、教員経験のある人づくり推進員の講話も聞くことで、テーマについてより深く考察することができたようだ。アンケートの結果も満足度が高く、今後の家庭教育講座を行う上でのやり方の一つとして確立していけると思う。			
課題等	今回の2回の講座は、担当した家庭教育支援員と人づくり推進員が知り合いだったこともあり、スムーズに実現したが、今後違う家庭教育支援員、人づくり推進員との組み合わせでも行っていくためには、お互いの役割のすり合わせ等綿密な打ち合わせが必要になると思われる。			
備考				
参考URL				

市町名 三島市

地域学校協働本部	
放課後子供教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
しずおか寺子屋	
その他（通学合宿等）	



つながるシートを使ってグループトーク

実施開始年度 平成 27 年度

活動名	家庭教育講座・相談			
実施箇所名	市内21小中学校 幼稚園など			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	家庭教育支援		
	開催日数等	35回程度	実施場所	各小中学校等
	参加保護者数	380人	家庭教育アドバイザー 家庭教育サポーター	9人
	<概要・特徴> ・すべての保護者が安心して家庭教育を行えるように「つながるシート」を活用して、講座、相談を実施。 ・市内の各小中学校や幼稚園を会場として、保護者の皆さんへ学習の機会の提供や家庭教育相談の実施等、家庭教育支援活動を行っている。 ・家庭教育アドバイザーの他に家庭教育サポーター（元PTA役員経験者）がいるので、グループトークで話しやすい雰囲気づくりをしている。			
	<活動上の工夫> ・月に1度、家庭教育アドバイザーと家庭教育サポーターが打合せを行い、講座実施を確認している。（講座の内容、司会、アイスブレイク役などを決定） ・依頼のあったテーマについて県から出ている「つながるシート」を参考に「三島版つながるシート」を児童生徒や地域の実態に合わせて作成している。 ・講座実施後、参加者からアンケートを取り、講座の振り返りを、次の講座等に生かしている。			
	連 携 先	各学校、家庭教育学級、三島市教育委員会生涯学習課等		
活動の成果	・小グループでのグループトーク形式にすることで、話しやすい雰囲気をつくり、楽しんで講座に参加している。 ・保護者が自分の子育てや家庭教育を振り返ったり、参考になる情報を得たりして、学び合うことができています。 ・普段話すことのない方とも話し合うので、保護者同士のつながりを広め、深めることができる。			
課題等	・すべての保護者が参加することができない。 ・学校・家庭教育学級内での講座時間の設定（最低でも1時間の講座時間の確保をしたいが、学校や家庭教育学級からの要望で行っているために無理な願いはできない。） ・保育園での家庭教育講座の実施が難しい。			
備考	※学校の負担にならないように準備等は、家庭教育アドバイザー、家庭教育サポーター、担当課で行うようにしている。			
参考URL				

市町名 三島市

地域学校協働本部	
放課後子供教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
しずおか寺子屋	
その他（通学合宿等）	



実施開始年度 平成 27 年度

親学講座「小学校入学説明会」

活動名	親学講座			
実施箇所名	市内小学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	家庭教育支援		
	開催日数等	9回	実施場所	市内小学校9校
	参加保護者数	600人	家庭教育アドバイザー 人づくり推進員	5人
	<概要・特徴> ・各校の入学説明会時に保護者が一同に集まる機会を活用して実施。 ・家庭教育アドバイザーや静岡県の人づくり推進員を講師として、活用している。 ・10分程度ではあるが、家庭の役割、保護者へのお願い等について講話をしている。			
	<活動上の工夫> ・事前に学校と連携をしている。（連絡を取り合い、学校の要望を応じて、学校の負担がないように実施している。） ・県からの家庭教育ファイルや親学ノートを活用している。 ・人づくり推進員と連携をしている。			
	連 携 先	市内小学校、三島市教育委員会生涯学習課等		
活動の成果	・定着した活動となっている。 ・家庭教育の大切さを伝えることができた。 ・入学を控え、不安を抱えている保護者の不安や悩みが少しでも解消されているのではないかと。			
課題等	・市内全小学校で実施できるようにしたい。 ・入学説明会は、新入生児童の全保護者が集まる機会であるので、もう少し時間をもらい「家庭教育」の重要性を伝えたいが、説明会の時間のない中で、設定してもらっているので、なかなか難しい。 ・中学校では、入学説明会が7校同じ日なので、家庭教育支援員の人数が足りない。			
備考				
参考URL				

市町名 伊東市

地域学校協働本部	
放課後子供教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
しずおか寺子屋	
その他（通学合宿等）	



「防災と家族」学びによる保護者同士の交流

実施開始年度 平成 28 年度

活動名	伊東市家庭教育支援チーム「サポ茶」			
実施箇所名	伊東市立南小学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	家庭教育支援		
	開催日数等	1 回	実施場所	図書室
	参加者数	7 人	ボランティア数	4 人
	<概要・特徴> 年間を通じて学校から依頼を受け実施している、家庭教育支援事業（講話やグループワーク）において、南小学校PTA役員会から「災害からの子供の守り方、家族としての心構え」をテーマとした講座開催の要望があり、家庭教育支援員（以下、「サポチャーズ」という。）が中心となり、講話とグループワークによる講座内容を企画し、実施した。			
	<活動上の工夫> ・保護者同士の交流が兼ねられるよう、少人数のグループワークを中心に実施した。 ・サポチャーズによる講話の他、参加者同士の言葉がそれぞれの家庭に持ち帰ることのできる情報となるよう、グループごとに各家庭での様子を話題にする時間をとった。			
	連 携 先	伊東市立南小学校		
活動の成果	・参加者アンケートの結果、防災について家族で考える具体的なきっかけとなったと満足度が高かった。 ・保護者同士の交流の場を創出できた。			
課題等	この回に限らず、家庭教育支援事業への参加者は、普段から地域や学校行事に積極的に参加している人であり、このような場をうまく利用できる人である印象を持つ。この場に出てこられない人（時間がとれない。苦手意識から参加意欲がない。など。）にどうやって参加してもらうか模索する必要がある。この回のように、様々な保護者の興味や事情に合わせた場を作っていく必要がある。			
備考				
参考URL				

市町名 裾野市

地域学校協働本部	
放課後子供教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
しずおか寺子屋	
その他（通学合宿等）	



実施開始年度 平成 27 年度

PTA家庭教育学級内でつながるシートを活用

活動名	家庭教育講座			
実施箇所名	裾野市内小・中学校 他			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	家庭教育支援		
	開催日数等	年10回程度	実施場所	会議室 他
	参加保護者数	98 人	ボランティア数	1～2 人
	<概要・特徴> 「つながるシート」を活用した家庭教育講座。			
	<活動上の工夫> ・各学校の家庭教育学級にて活用。			
	連携先	市内幼稚園・小・中学校		
活動の成果	・家庭教育について話し合う機会はあまりなく、他の方の意見が聞けることを参加者が喜んでいる。 ・悩みを共有することができる。			
課題等	・家庭教育支援員もそれぞれ仕事等で忙しく、継続的に活動できる支援員が少ない。			
備考				
参考URL				

市町名 伊豆市

地域学校協働本部	
放課後子供教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
しずおか寺子屋	
その他（通学合宿等）	



実施開始年度 令和 元 年度

気軽におしゃべり、みんなで「子育て」

活動名	家庭教育講座「子育ておしゃべりサロン」			
実施箇所名	伊豆市生きいきプラザ			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	子育て支援、母親の居場所づくり		
	開催日数等	年5回	実施場所	伊豆市生きいきプラザ
	参加数	50人	支援員数	5人
	<概要・特徴> 子育て中の保護者から気軽に相談を聞く家庭教育講座「おしゃべりサロン」に取り組んでいます。専門の知識を身に付けた家庭教育支援員が話を聞き、子育て世代の保護者の心が軽くなるよう協力する講座です。			
	<活動上の工夫> ・ちょっとした日常生活で想定される場面について書いてある「つながるシート」を活用し、参加者と家庭教育支援員とでおしゃべりをします。 ・子どもの成長記録として、食べても大丈夫なクレヨンを使用し、足形や手形取りをしています。			
	連携先	伊豆市役所教育部社会教育課 0558-83-5476		
活動の成果	・今までの「家庭教育講座」は、家庭教育支援員が小学校やこども園等に出かけ、「家庭教育講座」を開催していたが、伊豆市生きいきプラザに場所を固定して単独開催をすることで、0歳児の子育て世代の保護者も、家庭教育支援員に気軽に相談できるようになった。			
課題等	・参加者から毎月定期的開催してほしいと要望があるが、家庭教育支援員との調整が必要である。			
備考				
参考URL				

市町名 函南町

地域学校協働本部	
放課後子供教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
しずおか寺子屋	
その他（通学合宿等）	



家庭教育講座の様子

実施開始年度 平成 29 年度

活動名	家庭教育講座			
実施箇所名	函南町文化センター			
活動の概要・特徴・工夫	目的	保護者同士で話し合う機会を設け、不安や悩みの軽減につなげる		
	開催日数等	1日	実施場所	函南町文化センター
	参加者数	9人	ボランティア数	3人
	<概要・特徴> 家庭教育支援員による「つながるシート」を使った家庭教育講座。子育てについて話し合う機会を設け、親の不安や悩みを分かち合い、不安や悩みの軽減につなげることを目的とする。			
	<活動上の工夫> ・家庭教育支援員と事前にリハーサルや打ち合わせを行い、少しでも質の高い講座を開催できるよう努めている。 ・参加者がリラックスして参加できるよう、アイスブレイクの時間を長く設けている。			
	連携先	家庭教育支援サークル		
活動の成果	・参加者からは「楽しく話ができて、意見が参考になった。」などの感想が寄せられている。			
課題等	・学校の保護者会や懇談会等に出向いて実施したいが、学校からの希望がない。			
備考				
参考URL				

市町名 清水町

地域学校協働本部	
放課後子供教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
しずおか寺子屋	
その他（通学合宿等）	



親同士で気軽に話し、子育ての情報や悩みを共有

実施開始年度 令和 元 年度

活動名	家庭教育学級			
実施箇所名	清水町立幼稚園（４園）			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	家庭教育支援		
	開催日数等	4	実施場所	清水町立幼稚園
	参加保護者数	72 人	ボランティア数	9 人
	<概要・特徴> 4月（１園）、9月（２園）、10月（１園）の保育参観時に家庭教育学級（つながるシートを活用した懇談会）を実施した。北幼稚園16人、清水幼稚園16人、南幼稚園28人、西幼稚園12人という参加状況であった。4人グループで「つながるシート」を利用してグループワークを行う過程において、保護者同士が悩みや不安を互いに共有し、それが解消されることで自信を持てるよう、また、共感が持てるように家庭教育支援員がスムーズな会の進行に努めた。			
	<活動上の工夫> ・各園、小学校、中学校において、家庭教育学級が行われる際、家庭教育支援員の指導力の向上のため、毎回多くの支援員の参加を促して取り組んだ。 ・県では家庭教育支援について力をいれていること、これを受けて町でも家庭教育支援の充実を図るため、家庭教育支援員の増員・育成を目指して取り組んでいることを参加者に説明した。学校等の職員にも説明を行い、協力を得た。			
	連 携 先			
活動の成果	・アンケート調査の結果、下記のような意見をいただき、家庭教育や子育ての不安解消につながっていること、家庭教育支援員の指導力の向上につながっていることが感じ取られた。 ■コミュニケーションをとることが苦手で、このような会は憂鬱でしたが、話しやすいように会を進行していただき、とても良い機会になった。 ■他のお母さん方が、子供に対してどのように対応しているのかわかるよい機会になった。新しい発見や自分は間違っていなかったことが分かって良かった。			
課題等	・家庭教育や子育ての不安や悩みを解決するため、「つながるシート」を活用して行ったグループワークの満足度は高いが、どの園においてもこの取り組みを行う前の保護者の姿勢が消極的であったので、参加しやすい状況をつくるように工夫したい。 ・孤立した子育てにしないこと、他の家庭の子育てを知ること、さらに保護者同士が力を合わせて子育てに取り組むことで幅と広がりができ、子供の育ちが豊かになる。そのためには、幼稚園や小学校の低学年時の早い時期から保護者の取り組みを充実させ、協働による子育ての意識や体制づくりが必要であると思われるが、交流の場の設定や自ら参加しようとする保護者の意識づくりに課題がある。			
備考				
参考URL				

市町名 長泉町

地域学校協働本部	
放課後子供教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
しずおか寺子屋	
その他（通学合宿等）	



実施開始年度 平成 28 年度

つながるシートを使って

活動名	家庭教育支援活動			
実施箇所名	長泉小、南小、北小、長泉幼稚園、南幼稚園、東幼稚園、桃沢幼稚園、エンゼル幼稚園			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	子育て支援		
	開催日数等	各小幼 1 回	実施場所	各小学校・幼稚園
	参加者数	希望者	ボランティア数	1 人
	<概要・特徴> ・つながるシートを活用し、県の家庭教育支援員養成研修を受けた家庭教育支援員が、講座を行う。 ・平成28年度から、それぞれの幼稚園・小学校で必ず1回実施している。			
	<活動上の工夫> ・講座の内容は、家庭教育学級運営委員さんとそれぞれの小学校・幼稚園の実態に合わせてテーマを決めている。 ・園長先生、校長先生、教頭先生、担任の先生にも参加をお願いしている。			
	連 携 先	幼稚園・小学校		
活動の成果	・子育てに関する話す場を提供することで、共感したり相談したりすることができた。 ・先生方も参加することで、色々な視点で子育てを考えることができた。			
課題等	・とりくみから4年が経過し、マンネリ化しており内容や進め方について検討する時期にきている。 ・小学校の保護者の参加が低い。			
備考				
参考URL	http://town.nagaizumi.lg.jp/soshiki/shogai/index.html			

市町名 小山町

地域学校協働本部	
放課後子供教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
しずおか寺子屋	
その他（通学合宿等）	



実施開始年度 平成 27 年度

気楽なおしゃべりから「親学」

活動名	家庭教育学級「親学講座」			
実施箇所名	小山町立北郷小学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	家庭教育学級生が家庭の教育力を高めるために、親睦を図りながら、自分自身を知り、他人を知る。		
	開催日数等	6月19日	実施場所	北郷小学校会議室
	参加者数	17人	ボランティア数	1～2人
	<概要・特徴> 家庭教育学級の開講式の終了後に、家庭教育学級生に「親学講座」を行っている。家庭教育学級生が話を聞くことより、自分から話をして、自分をを出すことにより、仲間を作ったり、仲間意識を持つことをねらいとしている。			
	<活動上の工夫> ・初めて顔を合わせたり、ほとんどしゃべったことのない方のいる集まりなので、気楽におしゃべりをして仲間になれるようにしている。 ・自分と他人との考え方の違いを味わい、それぞれ違う他人どうしが、それぞれの良さを家庭教育学級の中に取り入れ、家庭教育学級が充実したものになるようにしている。			
	連携先	特になし		
活動の成果	・テーマがあることによって、普段は話さないようなことでも話すことができて、楽しい。初めての方とでもテーマによってトーク内容が決まってい、スムーズにコミュニケーションが取れた。話すときに困る事はスキップできるので、とても楽しくコミュニケーションがとれた。 ・知らない人ばかりで不安だったが、この活動で知り合いができて良かった。			
課題等	・家庭教育学級の中に位置付けて「親学」活動を行っている。親同士のコミュニケーションを深めることをねらっている。家庭教育学級への参加者の拡大が大きな課題である。			
備考				
参考URL				

市町名 島田市

地域学校協働本部	
放課後子供教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
しずおか寺子屋	
その他（通学合宿等）	



実施開始年度 平成 25 年度

時には失敗談も… 身近な「子育て」講座

活動名	親学講座			
実施箇所名	市内小学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	学びの場の提供		
	開催日数等	18日	実施場所	小学校体育館等
	参加保護者数	864人	ボランティア数	18人
	<概要・特徴> ・就学時健診や入学説明会を活用し、市内18小学校で、新一年生を子を持つすべての保護者に家庭教育の学びを届けている。			
	<活動上の工夫> ・子育ての先輩であるペアレントサポーターが講座の講師となることで、身近に感じてもらえるよう工夫している。 ・失敗談を話すことで、親近感を持って聞いてもらうことができる。 ・島田市独自の「親学ノート」の内容を見直し、改訂して活用している。			
	連 携 先	市内小学校		
活動の成果	・就学時健診や入学説明会など多くの保護者が集まる機会に実施しており、広く学習機会を提供している。 ・母親としての先輩でもあるペアサポが「親学講座」を行うことで、保護者の不安を和らげている。			
課題等	・講師となるペアレントサポーターの固定化、高齢化が課題である。			
備考				
参考URL				

市町名 島田市

地域学校協働本部	
放課後子供教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
しずおか寺子屋	
その他（通学合宿等）	



実施開始年度 平成 26 年度

保護者同士、何気ない悩みや不安を語り合う

活動名	つながるシートを用いた学習会			
実施箇所名	市内小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学びの場の提供		
	開催日数等	18日	実施場所	市内小学校音楽室等
	参加保護者数	540人	ボランティア数	20人
	<概要・特徴> ・市内18小学校の一年生の保護者を対象としたすべての家庭教育学級で実施している。子育ての先輩であるペアレントサポーターがファシリテーターとなり、保護者の不安の軽減に努めている。子育てのヒントとなる絵本を読み聞かせることもある。			
	<活動上の工夫> ・アイスブレイクで場を和ませ、シートに沿って日頃の何気ない悩みや不安について話し合いをしている。 ・静岡県のつながるシートを基に、小学1年生の親を対象としたより身近な内容の「島田版つながるシート」を作成し、活用している。			
	連携先	市内小学校		
活動の成果	・ペアレントサポーターが和やかな雰囲気作りをしており、参加者は安心して話し合いができています。 ・日頃の何気ない悩みや不安について相談できることも、保護者の安心につながっている。			
課題等	・ファシリテーターとなるペアレントサポーターの固定化、高齢化が課題である。			
備考				
参考URL				

市町名 島田市

地域学校協働本部	
放課後子供教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
しずおか寺子屋	
その他（通学合宿等）	



実施開始年度 平成 17 年度

楽しい学びの場 つながりを感じる場

活動名	子育て広場			
実施箇所名	金谷公民館、六合公民館、島田第一中学校地域連携室			
活動の概要・特徴・工夫	目的	居場所づくり		
	開催日数等	59日	実施場所	和室等
	参加保護者数	668人	ボランティア数	144人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none">・0歳児の子を持つ親のみを対象としたあかちゃん部と0～6歳までの子を持つ親を対象とした子育て広場と分け、ニーズに合わせ対応している。・公民館や中学校の地域連携室を利用している。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none">・基本的には居場所としているが、最後の15分にはペアレントサポーターによる絵本の読み聞かせを実施している。また、金谷公民館で実施しているみんくるあかちゃん部では、図書館が併設しているため、図書司書による読み聞かせを実施している。			
	連携先	図書館		
	活動の成果	<ul style="list-style-type: none">・子育て親子の居場所となり、安心できる雰囲気を作っている。・「子供にとって楽しい学びの場。母親にとって社会とのつながりを感じる場。」と参加者アンケートで回答をもらっている。		
課題等	<ul style="list-style-type: none">・ファシリテーターとなるペアレントサポーターの固定化、高齢化が課題である。			
備考				
参考URL				

市町名 島田市

地域学校協働本部	
放課後子供教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
しずおか寺子屋	
その他（通学合宿等）	



実施開始年度 平成 29 年度

保護者が学ぶ「読み聞かせ」

活動名	パパとママのための絵本の広場			
実施箇所名	金谷公民館			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	学びの場の提供、居場所づくり		
	開催日数等	2日	実施場所	集会室
	参加保護者数	6人	ボランティア数	3人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none">・島田市のペアレントサポーター読書推進チームが中心となり、おすすめの絵本の紹介や読み聞かせをしている。・子供を対象とした読み聞かせではなく、保護者を対象とした読み聞かせを実施している。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none">・ペアレントサポーターが選んだおすすめの本リストなどを配布している。・安心して参加できるよう託児を設けている。			
	連携先	図書館		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none">・参加者からは、絵本の選び方が分かった、癒されたなどの感想をもらっている。・いろいろな本を紹介するため、普段選ばない本を手に入る機会が増える。			
課題等	<ul style="list-style-type: none">・ファシリテーターとなるペアレントサポーターの固定化、高齢化が課題である。			
備考				
参考URL				

市町名 焼津市

地域学校協働本部	
放課後子供教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
しずおか寺子屋	
その他（通学合宿等）	



実施開始年度 平成 10 年度

交流事業「親子のつどい」の様子

活動名	家庭教育ネットワーカーの派遣			
実施箇所名	ウェルシップ・福祉の広場、各公民館等			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	地域人材の活用・育成、親同士・子供同士の交流、子育てに関する情報交換、仲間づくりの推進		
	開催日数等	90回	実施場所	公民館
	参加者数	64人	ボランティア数	0人
	<概要・特徴> 個人や子育てグループにおける学習および相談に対して、指導や助言を行うためのアドバイザーとして、家庭教育ネットワーカーを4名委嘱している。「子育てグループ・すくすく広場」の開設やふれあい交流事業等の運営に携わったり、情報誌「種NET」の発行を行っている。			
	<活動上の工夫> ・人材の育成を目指し、子育てグループは参加者自身が運営委員として企画・運営し、ネットワーカーが助言・指導を行うようにしています。 ・行事開催の際には託児も用意して、参加しやすい体制を整えている。			
	連携先	公民館、図書館、市福祉部局		
活動の成果	・地域の子育て経験者である家庭教育ネットワーカーと、入園前の親子と交流を行うことができた。 ・家庭教育ネットワーカーが子育てグループの運営委員をサポートし、コーディネートすることで、家庭教育学級のリーダーとなる人材を育成することができた。			
課題等	・福祉部局の子育て支援課と連携し事業を行っているが、重複している事業も多く、所管についてより協議・検討していく必要がある。			
備考				
参考URL	https://www.city.yaizu.lg.jp/k003/b01-002.html			

市町名 掛川市

地域学校協働本部	
放課後子供教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
しずおか寺子屋	
その他（通学合宿等）	

実施開始年度 平成 27 年度



支援員が懇談会グループワークや講座を実施

活動名	懇談会でのグループワークや講座			
実施箇所名	市内小学校21校、中学校1校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	保護者同士のつながり、親が子育てについて学ぶこと		
	開催日数等	全39回	実施場所	市内小中学校
	参加保護者数	約900人	ボランティア数	約40人
	<概要・特徴> 小中学校の懇談会の中で行われる保護者同士のグループワークにおいてファシリテーターとして保護者同士をつなげる活動をしている。 そのほかにも入学説明会での親学講座やネット・スマホルールの講座なども行っている。			
	<活動上の工夫> ・クラスや子どもたちの様子、担任の先生の要望等を事前に打ち合わせをしてヒアリングを実施している。その情報を支援員に伝えることでより充実したグループワークになるよう工夫している。 ・グループワークが保護者にとって価値あるものとなるよう支援員もファシリテーターとしての研修を積み重ねている。			
	連携先	小中学校		
活動の成果	・保護者同士がテーマに沿って、話し合うことで、よりつながりを深めたり、自分の子育てを見つめ直したりする良い機会となっている。 ・懇談会の準備をする先生の負担軽減にもなり、学校も保護者の思いを知る場となっている。			
課題等	・懇談会に残らない、残れない保護者の悩みを受け止め、つながる機会をどうやって設けるか。 ・予算の確保が課題となっている。			
備考				
参考URL	http://www.city.kakegawa.shizuoka.jp/life/kosodate/shienjigyou/katei_shien.html			

市町名 藤枝市

地域学校協働本部	
放課後子供教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
しずおか寺子屋	
その他（通学合宿等）	

実施開始年度 令和 元 年度



未就学児の保護者を対象にメディアモラル講座を開催

活動名	「スマホ時代の子育て」講座			
実施箇所名	藤枝市内幼稚園、保育園、子認定こども園			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	未就学児の保護者のためのメディア講習、地域の人材育成		
	開催日数等	年11回程度	実施場所	市内幼稚園、保育園、認定こども園
	参加者数	254人	ボランティア数	6人
	<概要・特徴> 幼児教育における専門的資質・能力を向上するための研修会を実施し、その受講者が未就学児の保護者を対象としたメディアモラル講座の指導者となり、20分程度の指導を行っている。			
	<活動上の工夫> ・メディアモラル講座を単体で実施するのではなく、既存事業（子育て出前講座）と同時にメディアモラル講座を開催することで、より多くの方に情報機器の安全利用について周知している。 ・家庭教育支援員、ケータイ・スマホルールアドバイザー登録者に活動の場を作ることで、指導者の人材育成に繋がっている。			
	連携先	ケータイ・スマホルールアドバイザー		
活動の成果	・スマホ等の情報機器の利用が習慣化する前に保護者の方に啓発できた。			
課題等	・子育て出前講座の種類により、メディアモラル講座を親子で受講する場合、子どもの集中力が持たないため内容が伝わらない場合がある。保護者に講座のためだけに時間をとっていただくことは難しいため、別の機会について検討する必要がある。			
備考				
参考URL				

市町名 川根本町

地域学校協働本部	
放課後子供教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
しずおか寺子屋	
その他（通学合宿等）	



実施開始年度 平成 29 年度

家庭教育学級合同学習会での講座の実施

活動名	家庭教育支援事業（家庭教育支援員）			
実施箇所名	川根本町内			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	家庭教育の支援		
	開催日数等	7日	実施場所	各小学校ほか
	参加者数	延べ121 人	ボランティア数	4 人
	＜概要・特徴＞ 家庭教育学級や就学時健康診断を利用して、つながるシートを使ったグループトークを実施。			
	＜活動上の工夫＞ ・家庭教育学級の合同学習会など子育て中の保護者が集まる機会を利用してグループトークなどを行っている。			
	連 携 先	—		
活動の成果	・子育ての悩みを話すことで、保護者の気持ちの負担を軽減することができた。 ・保護者同士のつながりを作ることができた。			
課題等	・実施回数が少ないこと。 ・活動の広報ができていない。			
備考				
参考URL				

市町名 湖西市

地域学校協働本部	
放課後子供教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
しずおか寺子屋	
その他（通学合宿等）	



実施開始年度 平成 28 年度

つながるシートを使ったグループワーク

活動名	家庭教育学級「中央研修会」			
実施箇所名	西部地域センター			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	親が安心して家庭教育を行えるよう学習機会の提供等を実施します。		
	開催日数等	3日	実施場所	西部地域センター
	参加保護者数	延べ81人	託児ボランティア数	延べ15人
	<概要・特徴> 小学校1年生を持つ保護者を対象に、市内小学校区を単位として家庭教育のあり方について学習する家庭教育学級を開設しています。 中央研修では「話し合おう・子育てについて」の講演会を3回実施し、その後グループに分かれ、つながるシートを使った講座を実施しました。			
	<つながるシートを活用するにあたっての工夫> 普段は顔を合わせない他校の保護者達が、話すことができるように配慮しました。 各自の発言時間を1分計の砂時計で計り、発言時間が平等になるように努めました。			
	連 携 先			
活動の成果	講演会では、保護者たちが講師の話に耳を傾け、熱心にメモをとっている姿が見られました。 つながるシートを活用したグループワークでは、普段は顔を合わせない保護者同士が、テーマを持つことによって自分の思いを話すことができました。共通の悩みや不安を感じていることに安心したという声が多く聞かれ、子育ての負担軽減につながりました。			
課題等	同じ参加者ばかりとなり、新しい参加者が増えにくい。			
備考				
参考URL				

市町名 森町

地域学校協働本部	
放課後子供教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
しずおか寺子屋	
その他（通学合宿等）	



実施開始年度 平成 27 年度

楽しく交流、振り返り、学び合う

活動名	家庭教育支援講座			
実施箇所名	町内保育園・幼稚園・小学校・中学校 他			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	家庭教育支援(保護者支援)		
	開催日数等	16回／年	実施場所	各園・校 他
	参加保護者数	延べ 702 人	支援員数	7 人
	<概要・特徴> 親の家庭教育力向上と親同士の交流を深めることを目的に、家庭教育支援員による講座(つながるシートを使用したグループワーク)を実施。 町内の各園校と連携し、町内のすべての保護者に支援が行き届くようにしている。			
	<活動上の工夫> ・堅苦しい雰囲気にならないように、アイスブレイクや自己紹介等も交え、温かい雰囲気の中グループワークが進められるようにしている。 ・独自のつながるシートを作成し、各園校の希望に添ったグループワークが実施できるようにしている。 ・三歳児の保護者や高校生、祖父母を対象としたグループワークにも対応している。			
	連 携 先	町内保育園・幼稚園・小学校・中学校 他		
活動の成果	・話し合いの中で、親同士が日頃の悩みや不安について相談することができた。 ・親が自分の子育てや家庭教育を振り返ったり、新たな情報を得たりして、学び合うことができた。 ・普段話すことのない親とも話し合うことができ、親同士のつながりを深めることができた。 ・活動が浸透していく中で、祖父母や父親を対象とした講座の実施につながっている。			
課題等	・支援員が増え活動日を分担したことで、支援員同士の連絡調整や情報交換が難しくなった。 ・活動後に反省等をする時間が十分にとれない。			
備考				

参考URL